

町医者だより

平成25年01月号

喘息を疑う症状

＜発行・お問合せ先＞

おおわだ内科呼吸器科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

ヤッポール本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポー改札口)

2分ミスタードーナツ並び

ヘアサロンAsh向かいビル2階

電話047-379-6661

おおわだ
内科
呼吸器科

平成25年初回の町医者だよりは、昨年12月に市川市薬剤師会で話をする機会を頂き、その時使用したスライドの一つ「喘息を疑う症状」についてお話しします。来院された患者さんにも説明していますが、喘息は病気というよりも遺伝的背景を有する「素因」で治ることはありません。その診断にスパイロ検査（呼吸機能検査）は必須で、症状や聴診だけでは絶対に診断できません。しかし、初診で来られた患者さんで、この方は喘息では、と疑う症状があります。

喘息を疑う症状

- ①長引く咳 慢性咳嗽の定義は8週間以上続く咳ですが、そこまで待ってくる患者さんはいません。1週間くらい続くと受診し始めます。2週間以上続く咳は喘息を疑います。長引く咳は繰り返すことが多いのですが、間隔はまちまちです。もちろんそれまで全くないという方も結構いらっしゃいます。
- ②眠れない咳 間隔はまちまちですが繰り返すことがあります。聞いてみると今はなくても過去にあった方は多いです。
- ③息苦しい 私は特に階段を駆け上った時や走った時の息苦しさや息切れに注意しています。多くの患者さんは「運動不足」と思っていますが呼吸機能の低下を示唆します。
- ④痰が絡む 咳や息切れがひどいときは痰は絡むだけで出にくい。むしろ改善してくると痰が増えることが多いです。これは痰が固くなるという喘息の病態を表しています。喘息死の原因はこの粘稠な痰が気管支内腔を塞ぐことによる窒息死です。
- ⑤いびきがひどくなる
- ⑥意外に多いのは「のどのトラブル」 表現はいろいろです。風邪ひくとのどの痛みが取れない、声が出なくなる、のどが乾燥する イガイガする。喘息は気道の炎症ですが、のどや鼻にも炎症が波及しやすいと考えられます。
- ⑦鼻水を伴うことが多い 鼻水があって咳をしていると「後鼻漏」による咳と私も以前は説明していましたが、呼吸機能検査を行うとほとんどが喘息です。
- ⑧インフルエンザの後に咳や痰が止まらない

喘息は外界からの刺激に対するセンサー遺伝子の異常に関連

それまで症状が全くなかったのに何で成人してから喘息と診断されるのか疑問にもたれる患者さんも多いのですが、症状が出現するにはきっかけがあります。1つには環境変化です。1-2年以内の転居や仕事場所の変更だったり、旅行後から咳が止まらない事もあります。女性では妊娠、出産後から症状が出ることもあります。2つ目は、感染症です。インフルエンザ感染あるいは普通の風邪をきっかけに咳が止まらない、痰が取れないなどです。ここ2-3年の研究では気管支上皮に発現するサイトカインの一種であるTSLP遺伝子の変異が関連しています(町医者だより 平成24年7月8月合併号を参照ください)。このサイトカインは、ウイルス感染、ダニ、カビ(アルテナリア)、タバコ煙や温度変化などを感知するセンサーの役割を持っています。このセンサーの機能異常によって喘息では気管支の炎症が取れにくくなっています。